

家の中のカビ・結露対策

高温多湿な日本ではカビがもともとはやすい環境にあります。

⇒ 乾燥している冬場でも、窓や浴室の結露がカビの原因になります。

結露は家の床や土台を腐らせ、カビはアトピー性皮膚炎などのアレルギーにも影響するので、早めの対策が必要です。

根本的な対策としては、建替え時にFPの家を考えてみましょう。

★ 窓

1. 暖房器具を使用する室内と外との温度差によって窓ガラスにつく水滴・・・。

この結露は、多くなると床にたれて 部屋全体が湿っぽくなり、カビの原因になります。

結露対策がカビ対策となるのです。

2. 結露を発生させないためには、まずは窓ガラスの断熱効果を高めること。

断熱シートや結露防止シートを使えば、簡単で大きな効果が得られます。



薄いフィルム状のものをドライヤーでシワをのばすタイプは、貼ってあることがわからないほどなので、窓の景観を損なうことはありません。

さらなる効果を期待するときは、サッシそのものを断熱性の高いタイプに替えることも考えられます。

今のサッシは残したままで、内側にもうひとつサッシを取り付ける方法もあります。

3. 結露が出た場合は、窓ガラスから流れ落ちてきて、サッシのゴム部分がカビたり、床が傷んだり、というのが一番の問題。

サッシに貼るだけで 流れ落ちる水滴を吸収してくれるのが、結露吸水テープです。



防カビ剤が含まれているので、テープにカビがつくこともなく、清潔です。

4.どうしても湿気が多く、結露が出た場合、やっぱり こまめに拭き取るしかありません。

水滴ワイパーで拭き取ると比較的楽に拭き取れるようです。



ワイパーの先から吸収した水は、
取っ手部分にたまるようになっています。

5.どうしても窓にカビがはえてしまったら、カビ取り剤をスプレーして、ブラシでこすります。

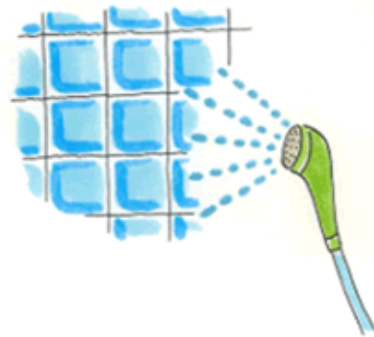


カビ取り剤をスプレーして、ブラシでこすります。
そして 水ぶきしてから、よく乾燥させます。
カビ取りがおわったら カビ防止剤を塗って予防しておきましょう。

★ 浴室

1. 予防・・・こんな何気ない毎日のケアがカビの発生を防いでくれます。

そうじと換気は念入りにしましょう。
入浴後に熱いシャワーをかけて石鹼カスを落とす・・・



2. それでもカビが発生したら、塩素系漂白剤やカビ取り剤で撃退



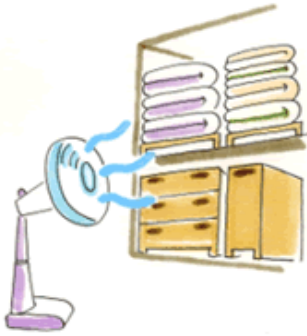
一緒に使用しては**ダメ**

一番の注意点は、とにかく塩素系漂白剤と酸性洗剤を混ぜないこと。
有毒なガスが発生するだけでなく、命を落とす危険も…。
なお、塩素系の漂白剤を使うときは、換気を忘れずに。

★ 押入

1.とにかく換気をこまめに行いましょう。

押入は、空気の流れがなく、湿気がこもりやすいため、カビや結露が発生しやすい場所だからです。



天気がよい日には、戸をあけて風を入れたり、扇風機などで人工的に風を送るのもいいでしょう。
閉めているときの通気性を上げるよう、スノコを敷いた上に物を置いたり、横や後ろの壁と隙間をあけて物を置いたりと…収納にも工夫を。

2.ときどきは 中身を全部出して、そうじすることも必要です。

3.押入結露防止シートを 押入収納の下に敷く…

それだけで、湿気と結露をかなり防ぐことができるようです。

★ キッチン

冷蔵庫や流し台には、黒ずんだカビが発生…

冷蔵庫のパッキンの黒ずみは、カビです。
流し台の下も配水管があるので、湿気が高くなりカビの温床になります。
台所用の塩素系漂白剤の溶液が活躍します。
パッキンや冷蔵庫内はこの溶液に浸した布でふいて、あとを水ふきしましょう。
流し台の下も同様の方法がいいでしょう。



冷蔵庫のなかのはずせるもの(野菜室や・しきりなど)は、とりはずして台所用塩素系漂白剤の溶液につけてから水洗い…。

★ たたみとカーペット

たたみは それ自身が、カビの栄養源。
そのうえに カーペットを 敷いている場合、カビの発生する可能性は 大です。
からぶきや 掃除機では、カビの胞子を まき散らすだけです
ペーパータオルなど 使い捨てのものにカビ取り剤をしみこませ、ふきとりましょう。
あとは、消毒用アルコールでふいておけば、殺菌と消毒ができ、予防にもなります。



★ 下駄箱

下駄箱では、靴についた汗や 雨の湿気、また泥やほこりも カビの原因となります。
ホウキやブラシで掃くと、カビをまき散らす結果になります。
まずは、カビの原因となる泥やほこりをぬれぞうきんでふき、次にカビ取り剤でふきます。
さらに 消毒用アルコールで 予防をしましょう。
カビ取り剤には、漂白効果があるので、靴にはつけないように!!

